

地域社会学会会報

No.240 2024.6.25

地域社会学会事務局 Office of Japan Association of Regional and Community Studies
〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 横浜国立大学都市科学部
齊藤麻人研究室内

TEL 045-339-3291(直) FAX 045-339-3291 郵便振替 地域社会学会 00150-2-790728
E-mail jarcs.office@gmail.com URL <http://jarcs.sakura.ne.jp/>

〈 会報 240 号のトピック 〉

- 1) 『地域社会学会年報』第37集の自由投稿論文を募集します。詳細は6ページをご覧ください。
- 2) 2024年度地域社会学会賞の推薦が始まります。詳細は6ページをご覧ください。
- 3) 2024年度の会費納入をお願いします。2023年度よりSMOOSYによるクレジットカード決済を原則としています。振込用紙の送付は行っておりませんので、サイトよりご確認をお願いします。

目次

- 7月7日(土)開催の第1回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い
1. 理事会からの報告
 2. 研究委員会からの報告
 3. 編集委員会からの報告
 4. 地域社会学会賞選考委員会からの報告
 5. 50周年事業委員会からの報告
 6. 地域社会学会第49回大会会計報告
 7. 地域社会学会2023年度決算報告ならびに2024年度予算
 8. 事務局からの報告とお願い
 9. 会員異動
 10. 会員の研究成果情報
 11. 理事会のご案内

2024年度第1回研究例会のご案内

日時 2024年7月7日(日) 13:30~17:00
会場 関東学院大学金沢八景キャンパス3号館203教室
(対面とZOOMによるハイフレックス形式)

※アクセス方法等は、開催2日前をめぐりに、会員メーリングリストで配信します。

第1報告: 「流動化する時代における若者の地方移住と地域・政策—第49回大会シンポジウムの成果と課題—」(仮題)

報告者 清水洋行(千葉大学)

第2報告: 地域社会学会50周年記念事業「地域社会学を振り返る」

「地域社会学会の記憶と研究を振り返って—地域研究と災害研究の交叉—」(仮題)

報告者 浦野正樹(早稲田大学名誉教授)

7月7日(日)開催の第1回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い

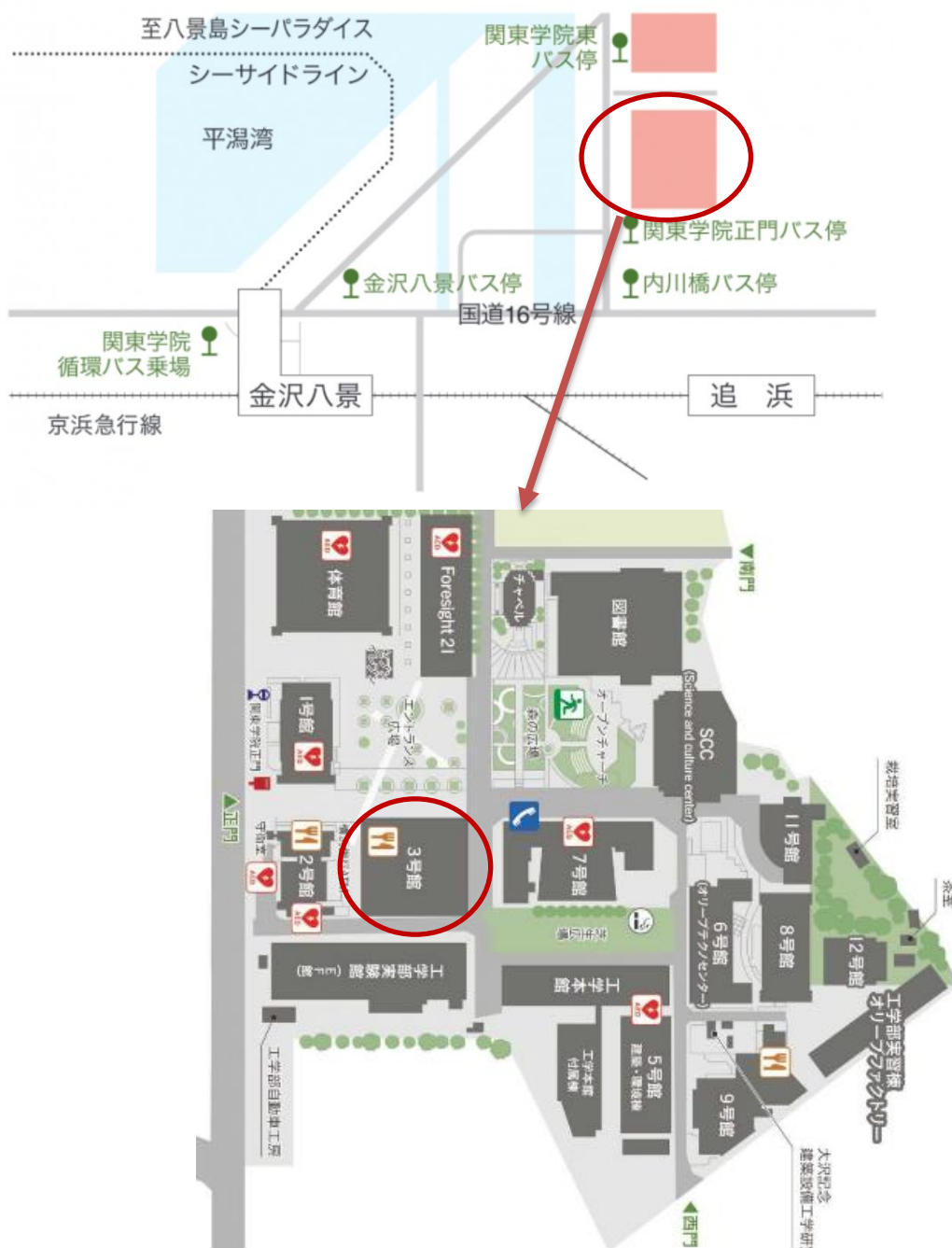
1. 会場にご参加のみなさま

会場： 関東学院大学金沢八景キャンパス 3号館203教室

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1 TEL 045-786-7002 (代表)

アクセス： 京急本線「金沢八景駅」より徒歩約15分(休日につきバスはありません。西門は閉まっているので、正門からお入りください)。

備考： 通常の研究例会と違い日曜日の開催となりますのでご注意ください。大学構内のコンビニや飲食店は休日営業していません。特に理事の先生方は昼食をご持参くださいますようお願いいたします。



2. オンラインでの参加のみなさま

<事前の準備のお願い>

- ◆ 事前に Zoomのアプリをインストールしておいてください。インストール済みの方は、「アップデートを確認」で最新バージョンに更新しておいてください。
- ◆ Zoomのアクセス方法等は、開催 2 日程度前をめどに、会員メーリングリストで配信します。
- ◆ Zoomのリンクやミーティング ID、パスワードは、他人に教えないでください。

<当日のお願い>

- ◆ 待機室を設定している場合、所定時刻の 5 分ほど前に設定を解除して入室できるようにします。
- ◆ ただし、直前の打ち合わせが長引くなどで、待機室の設定解除が遅れることもあります。その場合は待機室でお待ちください。
- ◆ ミーティングルームに入ったら、司会者と報告者以外は、マイクは「ミュート」にして、発言時のみ「ミュート解除」にしてください。ビデオはオンでもオフでも結構です。適切な操作がなされていない場合には、主催者がミュートにするなどの操作をすることがあります。
- ◆ 画面に表示する氏名は、「フルネーム（所属）」に変更しておいてください。
- ◆ 研究例会は、研究委員会が記録用にレコーディングします。接続・参加をもってレコーディングに承諾いただいたものとみなします。研究委員会以外の方（報告者も含めて）が Zoomの画面を撮影したり、録画・録音したりすることは禁じます。

<配布資料について>

- ◆ 報告者から当日配布資料があるときは、Zoomのチャット機能を利用して配布します。
- ◆ 配布のタイミングは、各報告の開始時と開始 10 分後の 2 回です。

<質問・発言について>

- ◆ 以下のいずれかの方法でお願いいたします。
- ① Zoomの「リアクション」にある「手を挙げる」を表示させる。
- ② Zoomのチャットに、質問内容を書き込む
- ③ Zoomのチャットに、質問がある旨を書き込む

<Zoom 終了後の交流時間の取りやめについて>

- ◆ オンライン開催では、研究例会の終了後もしばらくZoom を開放し、報告者・参加者の交流の時間としてきましたが、今回はハイフレックス開催のため片付け等の都合から、Zoomでの交流時間は設けないこととさせていただきます。

<当日の Zoom操作に関する相談窓口>

- ◆ 当日、「接続できない」などの不測の事態に備えて、Zoom操作に関する相談窓口としてサポートセンターを開設します。メールでご連絡ください。

当日サポートセンターの連絡先

- ◇ メールアドレス saito-asato-nb[アット]ynu. ac. jp [アット]を@にしてください。
- ◇ 当日配布資料の再配布はありません。

<問い合わせ先>

- ◆ 当日のZoom操作に関すること以外は、研究委員長（室井研二、muroi.kenji.w9[アット]f.mail.nagoya-u. ac. jp）までメールでお問い合わせください。[アット]を@にしてください。

1. 理事会からの報告

(1)2024年度第1回理事会報告

2024年度地域社会学会第1回理事会は、2024年5月12日（日）の12時から13時まで、滋賀県立大学にて開催されました。ここでは、審議事項として4件が議論されました。

出席（9名）：小山弘美、齊藤麻人、清水洋行、二階堂裕子、町村敬志、松宮朝、室井研二、矢部拓也、望月美希

1. 庶務担当理事の互選について
2. 会長の互選について
3. 理事の各種委員会委員・担当の選任について
4. 選任理事候補者（10名）について

報告事項のうち、研究委員会、編集委員会、事務局からの報告の詳細は各委員会報告・事務局報告をご覧ください。

(2)理事選挙の結果

理事選挙は2024年5月11日から12日、滋賀県立大学にて投票が行われました。結果は以下の通りでした。その後、5月12日に第1回理事会が開かれ、さらに、5月12日の臨時総会を経て会長以下、次の通り役割分担が決まりました。なお、会長と庶務担当については、会則16条の規定にしたがって、臨時総会で承認されました。

<理事選挙の結果>

投票による理事（10名）

小山弘美（関東学院大学）、齊藤麻人（横浜国立大学）、清水洋行（千葉大学）、二階堂裕子（ノートルダム清心女子大学）、藤井和佐（摂南大学）、松宮朝（愛知県立大学）、町村敬志（東京経済大学）、室井研二（名古屋大学）、望月美希（静岡大学）、矢部拓也（徳島大学）

話し合いによる理事（10名）

阪口毅（立教大学）、佐藤洋子（高知大学）、武田俊輔（法政大学）、辻岳史（国立環境研究所）、野坂真（青森公立大学）、平井太郎（弘前大学）、前島訓子（愛知淑徳大学）、三浦倫平（横浜国立大学）、渡邊隼（日本大学）

<新理事の役割分担>

会長	藤井和佐
庶務担当（事務局統括）	齊藤麻人
財務担当（事務局）	渡邊隼
WEB担当（事務局）	
研究委員長	室井研二
研究委員	二階堂裕子（副委員長）、阪口毅、佐藤洋子（50周年事業担当）、武田俊輔、辻岳史、矢部拓也
編集委員長	松宮朝
編集委員	前島訓子（副委員長、50周年事業担当）、清水洋行（50周年事業担当）、野坂真、平井太郎、望月美希
国際交流委員長	小山弘美（50周年事業担当）
国際交流委員	町村敬志（50周年事業担当）
学会賞担当	望月美希
社会学系コンソーシアム担当	三浦倫平
学会賞選考委員長	玉野和志（非理事）

(3)総会、臨時総会報告

2024年5月11日（土）16時45分～17時30分まで、滋賀県立大学にて、地域社会学会総会が開催されました。また、5月12日（日）13時15分～13時25分まで臨時総会が開催されました。

総会では、渡戸一郎会員が座長として選出され、会長挨拶、研究委員会報告、編集委員会報告、国際交流委員会報告、地域社会学会賞選考委員会報告、事務局報告が行われました。続いて、2023年度会計決算についての説明が事務局からあり、監事による監査報告が行われました。2024年度予算案についても同様に説明が行われ、決算、予算案ともに原案通り承認されました。

臨時総会では、中澤秀雄選挙管理委員長より理事選挙結果が報告され、新理事によって話し合いが行われた結果、会長候補者として藤井和佐会員、庶務担当理事候補者として齊藤麻人会員が選ばれたことが報告されました。原案通り、両候補者の承認が行われました（会則第16条3の規定による総会承認）。また、第50回大会について、町村敬志会長より東京経済大学にて開催されることが報告されました。

総会での他の審議・承認事項は以下のとおりです。

① 地域社会学会著作権規定の改正

<現行>

第1条 本規定は、地域社会学会（以下「本学会」という）の学会誌である『地域社会学会年報』（以下『年報』という）ならびに『地域社会学会会報』（以下『会報』という）に投稿される論文等著作物の著作権について定める。

第3条 『年報』ならびに『会報』に投稿される論文等著作物の著作財産権については、本学会に最終原稿が投稿された時点から、本学会に帰属する。

第4条 『年報』ならびに『会報』に投稿される論文等著作物の著作者人格権については、著作者に帰属する。ただし、著作者は、本学会および本学会が論文等著作物の利用を許諾した第三者にたいして、これを行使しない。

第6条 著作者が、自身の論文等著作物を、自身の用途のために利用する場合は、本学会は、これに異議申し立て、もしくは妨げることをしない。ただし、著作者は、本学会に事前に申し出をおこなったうえ、利用する論文等著作物のなかに、当該の『年報』あるいは『会報』が出典である旨を明記する。

第7条 『年報』ならびに『会報』に投稿された論文等著作物が第三者の著作権を侵害する問題が生じた場合、本学会と著作者が対応について協議し、解決を図る。

<改正> 下線部分

第1条 本規定は、地域社会学会（以下「本学会」という）の学会誌である『地域社会学会年報』（以下『年報』という）、『地域社会学会ジャーナル』（以下『ジャーナル』という）ならびに『地域社会学会会報』（以下『会報』という）に投稿される論文等著作物の著作権について定める。

第3条 『年報』、『ジャーナル』ならびに『会報』に投稿される論文等著作物の著作財産権については、本学会に最終原稿が投稿された時点から、本学会に帰属する。

第4条 『年報』、『ジャーナル』ならびに『会報』に投稿される論文等著作物の著作者人格権については、著作者に帰属する。ただし、著作者は、本学会および本学会が論文等著作物の利用を許諾した第三者にたいして、これを行使しない。

第6条 著作者が、自身の論文等著作物を、自身の用途のために利用する場合は、本学会は、これに異議申し立て、もしくは妨げることをしない。ただし、著作者は、本学会に事前に申し出をおこなったうえ、利用する論文等著作物のなかに、当該の『年報』、『ジャーナル』ならびに『会報』が出典である旨を明記する。

第7条 『年報』、『ジャーナル』ならびに『会報』に投稿された論文等著作物が第三者の著作権を侵害する問題が生じた場合、本学会と著作者が対応について協議し、解決を図る。

（齊藤麻人）

2. 研究委員会からの報告

新しく研究委員長を務めることとなりました室井研二です。現在、引継ぎの渦中で右往左往しながら1ヶ月が過ぎました。何かと行き届かないところもあると思いますが、学会の研究活動の向上に努めて参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

今期の研究委員会は、二階堂裕子会員、矢部拓也会員、佐藤洋子会員、坂口毅会員、武田俊輔会員、辻岳史会員とともにスタートしました。研究例会に先立ち、6月14日(金)にオンラインで第1回研究委員会を開催し、年間スケジュールや主な業務内容、非理事の研究委員の候補、ジャーナル執筆者の選出、そして今期の研究テーマについて確認、検討しました。追加の研究委員、新しい研究テーマについては理事会で承認を得た後、次号の会報でお知らせする予定です。

7月7日(日)の第1回研究例会は関東学院大学にてハイフレックスで開催します。第1報告は研究委員会からで、清水洋行会員に若者の地方移住をテーマとした今年度の大会シンポジウムの総括をして頂く予定です。「災害」や「移住」はこれからますます重要性を高めていく論点であると思います。これまでの学会の研究活動の蓄積を踏まえ、今後の地域社会学をどう展望するかを考える機会にできれば幸いです。第2報告は地域社会学学会50周年企画から、浦野正樹会員に地域研究と災害研究の交錯に着目した観点から学会活動の歴史を振り返って頂く予定です。

(室井研二)

3. 編集委員会からの報告

年報第36集は2023年度会費納入済会員には6月初旬に東信堂から直送され、もうお手元に届いている頃かと思えます。会員の皆様のご協力に対し、改めまして御礼を申し上げます。まだお受け取りでない会員の皆様につきましては、2023年度会費納入が確認された方から順次郵送される予定です。

さて早速ですが、年報第37集(2025年5月発行予定)の原稿を募集します。下記の要領にしたがって募集いたしますので、奮ってご投稿下さい。自由投稿論文については他のカテゴリーの原稿に比べて締め切りが早くなっております。<ビューポイント><名著再発見><研究紹介>のコーナーについても、投稿をお待ちしております。なお、35集から投稿規定が変更になり、電子ファイルでのみの提出になります(郵送での提出は不要です)。投稿規定、執筆要領、著作権規定を十分にご確認の上ご提出下さい。

<年報第37集原稿募集要領>

1. 自由投稿論文: タイトル・執筆者氏名・本文・図表・注・引用文献を含めて、年報掲載時に14ページ以内(1ページは41字×38行で1,558字)に収まるものとします。編集上必要なデッドスペースを差し引いて、上限字数は21,402字(41字×522行)です。図表等については編集上十分なスペースを確保してください。なお英文要旨は掲載決定後に、300語以内で作成します。自由投稿論文の締め切りは、2024年9月30日(金)とします。

2. 書評(依頼)／自著・自訳書・編著書紹介(依頼)／研究紹介: タイトル・執筆者氏名・本文を含めて、年報掲載時に2ページ以内となる2,870字(41字×70行)に収まるものとします。

3. ビューポイント／名著再発見: タイトル・執筆者氏名・本文を含めて、年報掲載時に4ページ以内となる5,986字(41字×146行)に収まるものとします。2及び3の原稿の締め切りは、2024年10月末日とします。

4. 原稿は、Eメールの添付ファイルにて電子ファイルでご提出下さい。原稿提出時には、別紙に氏名・住所・電話番号・電子メールアドレスを明記して下さい。

5. 「執筆要領」で明文規定している以外のルールは『社会学評論スタイルガイド』に準拠することになります。この点、くれぐれもご注意下さい。

6. また、自由投稿論文については300語程度の英文要旨を掲載することになります。英文要旨は、編集委員会で論文審査が終了した後に提出して頂きます。英文校閲は編集委員会でおこなう予定です。

7. 原稿の提出先: Email: matumiya[at]ews.aichi-pu.ac.jp ←[at]を@に変えて下さい。

(船戸 修一 松宮 朝)

4. 地域社会学会賞選考委員会からの報告

2024年度の学会賞の選考が始まります。

(1) 地域社会学会賞には、以下の5種類の賞があります。

1. 学会賞

①個人著作部門、②共同研究部門

2. 奨励賞〔大学院修士課程修了15年以内の者を対象〕

③個人著作部門、④共同研究部門、⑤論文部門

(2) 対象業績は、2023年6月1日から2024年5月31日までに刊行された業績です。

(3) 推薦期間は、2024年8月1日(木)から9月30日(月)の間です。

(4) 推薦委員による推薦のほか、会員の自薦・他薦もあります。選考委員長の玉野和志宛てに2024年9月30日(月)必着でお願いします。自薦の場合は、刊行物1点も送付してください。

(5) 送付先

E-mail: tamano[アット]k.email.ne.jp(「開封確認要求」付きで[アット]を@にしてください)。

郵送: 〒157-0067 世田谷区喜多見 9-24-28 玉野 和志 宛(自宅)

(6) 推薦にあたっては、学会賞規定に沿った基準で選んでいただき、以下を記してください。

①学会賞、奨励賞の区別、②対象研究成果の題目、発行年月日、発行所あるいは掲載雑誌名・巻号、③著者・編者・編著者の氏名、所属、職位・学年次、奨励賞の場合は修士課程修了の有無と修了年月(詳細不明の場合は事務局で調査します)、④推薦者氏名、⑤推薦理由(300字以内)。

Mailの場合は、wordファイルでお願いします。

(7) 2024年度の選考委員(8名)は、玉野和志(重任)、中西典子(重任)、新原道信(重任)、藤井和佐(重任)、横田尚俊(重任)、吉野英岐(重任)、和田清美(重任)、丹邊宣彦(重任)。委員長は玉野が務めております。

推薦委員(17名)は、任期中(2年間)は非公開で、任期の終了後に「会報」で公開しています。

(玉野 和志)

5. 50周年事業委員会からの報告

「若手会員の地域調査・研究ワークショップ」

5月の大会時に報告しましたが、現在学会若手21名が参加し、日立班、淡路島班の二手に分かれて調査を行っていくことになりました。また、スピンオフ企画として、『新版キーワード地域社会学』を毎月読んでいく予定です。こちらについては飛び入り参加も歓迎です。事務局または担当理事までご連絡ください。

(小山弘美・佐藤洋子)

6. 地域社会学会第49回大会会計報告

地域社会学会第49回大会会計報告(滋賀県立大学)

●収入の部

費目	単価(円)	数量	金額(円)	備考
大会参加費(一般)	2,000	106	212,000	
大会参加費(院生)	1,000	13	13,000	
懇親会費(一般)	5,000	68	340,000	
懇親会費(院生)	3,000	9	27,000	
弁当費	1,000	45	45,000	
大会補助費(学会から)	300,000	1	300,000	
大会補助金(開催校から)	100,000	1	100,000	
計			1,037,000	

●支出の部

費目	単価(円)	数量	金額(円)	備考
施設使用料			0	全額減免
学生謝金	1,200	194	232,800	26h×5名、14h×2名、12h×3名
懇親会費	360,000	1	360,000	
飲料費	1,602	1	1,602	会員控室用ペットボトル5、シンポ用7
弁当費	1,000	76	76,000	
消耗品費	150	2	300	紙コップ
	8,505	1	8,505	A0判ロール紙
	31,240	1	31,240	大判プリンタインク
	13,640	1	13,640	レーザプリンタトナー
バス運行費	47,300	1	47,300	
振込手数料	220	3	660	
	440	2	880	
学会会計に返金			264,073	
計			1,037,000	

7. 地域社会学会 2023 年決算報告ならびに 2024 年度予算

2024年度 地域社会学会予算案 (2024年5月1日～2025年4月30日)

経常会計

	項目	2023 年度予算	2023 年度決算	2024 年度予算案	
	1 前年度繰越金	7,855,416	7,855,416	7,169,504	注1
	2 会費収入	1,988,800	2,341,848	2,417,000	注2
	3 大会会計繰越金	0	154,291	0	
	4 雑収入	0	5	0	
	5 基金より繰入	—	310,318	—	
収入合計		9,844,216	10,661,878	9,586,504	
1 研究活動費		230,000	59,495	230,000	
	(会場費)	40,000	3,960	40,000	
	(事務・通信費)	10,000	35,535	10,000	
	(謝礼・交通費)	180,000	20,000	180,000	
2 委員会・理事会費		290,000	21,660	360,000	
	(会場費)	10,000	0	10,000	
	(事務・通信費)	40,000	0	40,000	
	(交通費)	180,000	21,660	250,000	注3
	(人件費)	60,000	0	60,000	
3 事務局費		950,000	166,272	1,046,000	
	(人件費)	50,000	0	50,000	
	(通信費)	580,000	155,526	280,000	
	(Smoosy 利用料)	—	—	396,000	注4
	(消耗品)	60,000	746	60,000	
	(交通費)	240,000	0	240,000	
	(学会会議関係)	10,000	10,000	10,000	
	(会議費)	10,000	0	10,000	
4 会報発行費		20,000	0	20,000	
	(印刷費)	10,000	0	10,000	
	(発送費)	10,000	0	10,000	
5 年報費		1,080,000	848,600	1,080,000	
	(買い上げ分)	900,000	739,200	900,000	
	(年報発送費)	180,000	109,400	180,000	
6 大会補助費		300,000	300,000	400,000	
	(大会補助金)	200,000	200,000	200,000	

	(大会特別補助) (大会時託児補助)	100,000 —	100,000 —	100,000 100,000	注5
7 名簿発行費	(調査費) (印刷費)	0 0 0	0 0 0	0 0 0	
8 特別事業費	(50周年記念) (ISA関連)	2,100,000 2,100,000 0	2,013,250 2,013,250 0	86,750 86,750 0	注6
9 将来計画基金	(基金積立金)	0 0	0 0	0 0	
10 予備費	(予備費)	4,874,216 4,874,216	83,097 83,097	6,363,754 6,363,754	
支出合計		9,844,216	3,492,374	9,586,504	
	残高 次期繰越金		7,169,504 7,169,504		

注1 前年度繰越金のうち13,000円は2024年度会費前納分。

注2 2024年度会費収入は2024年度中に納入されることが予想される金額である。

2024年4月末時点での一般会員337名(2名は前年度に先払い)院生会員26名への会費請求総額3,022,000円(2023年度以前の過年度未払い分を含む)のうち80%が納入されるとの想定。

注3 2023年度総会の議論に基づき増額した。

注4 2023年度総会の議論に基づき項目を新設した。

注5 理事会の議論に基づき項目を新設した。

注6 2,000,000円が50周年記念事業として基金化されている。100,000円は事務局管理で、未執行分は次年度に繰り越される。

7. 事務局からの報告とお願い

(1) 会費納入状況

2024年5月8日時点の会員は382名(一般345名、院生23名、終身14名)で、2023年度の会費納入率は88.4%(今年度の会費納入対象者368人中341人が納入済み)でした。

今年度までの4年以上滞納者は4名おり、会員資格喪失について審議事項になります。そのほか、3年滞納者は現時点では5名です。なお2年未納者は23名です。

(2) 会報238、239号・ジャーナルNo.15の発行

庶務担当理事から学会HP上で会報238、239号とジャーナルNo.15の発行が報告されました。

(3) 2023年度会費納入のお願い

納入の状況について、<https://jarcs.sakura.ne.jp/information.html>よりご確認お願い申し上げます。

(4) 会員の研究成果情報の提供のお願い

2023年以降の研究成果に関する情報を募集しています。用紙(地域社会学会WEBサイトからダウンロードできます)の情報を、事務局宛のメールでお送りください。ご協力よろしく申し上げます。万一、情報を提供したのに掲載されていないなどの手違いがございましたら、事務局まで御一報くださいますようお願いいたします。

(齊藤麻人)

8. 会員異動

<新入会員>

- ・李凱（金沢大学）
- ・佐伯浩之（宮崎大学）

<退会>

山崎義広

<会則6条資格喪失>

高橋準、檜楨貢、宮城能彦、森幸雄

（以上、2024年5月9日理事会で承認）

9. 会員の研究成果情報(2023～2024年度)

●2024年度 [著作]

- ・橋本和孝『短歌にみるハンセン病の社会史』Amazon Services International 2024年4月
- ・橋本和孝『逆輸入する歴史社会学—日越研究四半世紀を超えて—』Amazon Services International 2024年5月

10. 理事会のご案内

第1回理事会

日時 7月7日（日）10:30～12:30

関東学院大学金沢八景キャンパス3号館203教室+Zoomによるハイフレックス形式